

2030 年の私からの手紙

(原文)

鹿毛 瑞希 (16 歳)

東京都

昭和女子大学附属高等学校

こんにちは。今、あなたはたくさんの方に考えを巡らせて、やるべきことも多く、忙しい時期だと思います。今まで出会ってきた人たちに影響されながら、多様な考え方を学んでいると思います。人の価値観に触れたら、自分はどう思うのかをしっかりと考えてください。もし、考えることをやめてしまったら、自らの価値観への意識は段々薄れていき、自分を見失ってしまいます。何が嫌いでも何が好きなのか、何が悪くて何が善いのか、自分と向き合う時間を惜しまず考え続けてください。

今の私は 26 歳です。あなたの 16 歳から 26 歳までの 10 年間は人生の中で一番充実した時期でした。新しいことに挑戦し、慣れない環境に飛び込み、たくさんの経験から学びを得ました。時には挫折や絶望を味わいます。辛いことですが、同時に幸せになります。困難な状況に身を置けば、些細なことが幸せに感じます。そして、何かを捨てたらそれ相応のものが手に入ることに希望をもって下さい。逆に、自ら困難にぶつかりにいてください。挫折しているときこそ生命力を発揮すべき時です。

さて、私の世界では 10 年前では想像できないほど、科学、情報、社会制度が進歩しています。多様な考え方が認められ、SNS で発信されています。人々のつながりの輪が広がり、精神的にも身体的にも苦しい状態にある人の心の拠りどころも増えました。情報量が増えるにつれて、世の中は機能的で便利なサービスやものにあふれ、多くの方が生産性を求めています。新しい事業が次々と立ち上がり、誰にでも挑戦の機会が限りなく設けられています。環境に優しい技術も開発されて緑も少しずつ増えていきました。そんな中、私は今のあなたの「人を感動させる」という目的のもと、今も生きています。デザインを専門に勉強し、頭で想像したものを美しい形にしています。自分は誰かを支えている、社会に貢献できていると実感する場面もあります。しかし、インプットし続けないと、流れの速い社会についていけません。結果がでないと通用しない世界で不安を感じていますが、今のあなたに馬鹿にされないように、今できることを全力でやり切ります。

あなたは時々、過去の自分の失敗を思い出しては、胸を痛めて、羞恥心を覚えていると思います。しかし、過去の失敗で得たものこそが、何よりも自分を形成している重要な要素です。誰かから教わったものよりもずっと価値が高いものです。恥じるのも悪いことではないですが、その失敗によって何を得たかに焦点をあててほしいです。

あなたが昔より他人にどう思われているかを気にせず、どんな立場の人にも自分の意見を言えるようになったことを私は知っています。その調子で成長をし続けてください。

最後に私があなたに対して最も願っていることを伝えます。それは人のために生きてほしいという願いです。今のあなたは、もう人に振り回されたくない、自分のために生きたいと思っています。私はどちらも紙一重であると考えます。人のために生きたって結局は自己満足、そうかもしれません。ただ、死んだ後に残るものは違ってくると思います。自分のために生きていたとして、死んでしまつたら自分は消えます。誰かに尽くしていないので自分の思い、愛情は誰かの心にも残りません。しかし、人のために生きていれば、それらは残っているはずです。愛を注ぐ相手が死んでいたとしても誰かが見てくれているかもしれません。一人でもいいので、その人が現れたときは全てをかけて尽くしてみてください。人はあなたにはない視点を持っています。それを使ってあなたに気づかせてくれます。いつかあなたが心から誰かのために生きたいと思える日が来ることを願っています。